

## 教育課程編成の考え方・特色（カリキュラムポリシー）

### 1. 教育課程編成の考え方

近年の医療・医学の急速な進歩は、これまでの医科学・生命科学研究の枠組みを大きく変えつつあり、長寿科学、再生医学、感染症学をはじめとして研究手法や関心領域が数年単位でめまぐるしく進化・変貌を遂げ、それぞれの領域が複合的に絡み学際的になっているという実態がある。その様な状況から、研究分野間の有機的な連携による教育体制や包括的で多様な知識・技術の獲得を促す学生指導が無いと、国際的に活躍できる人材の育成は難しく、大きな研究の発展は望めない。日増しに複雑化・高度化の様相を見せる医学領域において、リーダーシップを発揮する高度な人材を育成するには、分野横断的な大学院プログラムを用意することが必須の課題である。以上の大学院教育が向かうべき方向性を踏まえて、平成 26 年 4 月に医学研究科 博士課程の改組を実施した。改組では、二つあった専攻を「医学専攻」に一本化し、コースワークとリサーチワークからなる教育課程を編成した。

#### (1) コースワーク

##### ① 共通科目

「研究・生命倫理概論」、「研究方法論概論」、「実験動物学概論」、「情報医科学概論」、「分子細胞生物学概論」の 5 つの科目を共通の科目として必修とし、研究者の素地の涵養を目指す。これらの履修によって、大学院生に、課題設定、方法論、倫理観等の幅広い基礎的能力や俯瞰的なものの見方を修得させる。

##### ② コース別科目

沖縄の地域特性やアジアにおける国際貢献を見据えて、本研究科が推進する研究プロジェクトに対応した「健康長寿医学コース」、「亜熱帯医学コース」、「社会医学コース」、及び「再生・再建医学コース」を設定する。各コースに対応した「健康長寿医学概論」、「亜熱帯医学概論」、「社会医学概論」、「再生・再建医学概論」を選択必修科目として、その後の研究指導へと有機的につながる専門的知識と能力を修得させる。

##### ③ 特別演習（研究室ローテーション）

研究室ローテーション（必修科目）は、コースワークの充実を目的とした制度で、大学院生が本人の科学的興味あるいは研究の関連性に基づいて、他の研究室のリサーチカンファレンスや論文抄読会に自由に参加出来る制度である。この制度により、大学院生が複数の講座において自らの研究分野以外の幅広い知識を獲得出来るようにする。さらに、研究者間のコミュニケーションが図られ、共同研究が活性化・円滑化されることを狙っている。

##### ④ 大学院特別研究Ⅰ、Ⅱ

指導教員のもと、大学院特別研究Ⅰ、Ⅱ（演習、実習、いずれも必修科目）を履修する中で、自ら研究課題を発見し設定する能力、仮説を検証する能力、他人を納得させるためのコミュニケーション能力、国際性及び倫理観を修得させる。

大学院特別研究Ⅰ（演習）では、関連する科学論文等を題材として客観的評価の方法、批判的思考法を修得させ、さらにそれを他人に紹介できるプレゼンテーション能力を養う。

大学院特別研究Ⅱ（実習）では、学位論文とする研究課題の発見と設定する能力、矛盾しない仮説の設定とその検証、実験及びデータ解析能力、国際性と倫理観、さらには他人に納得させるコミュニケーション能力を修得させる。

## ⑤ 専門科目

専門科目により、大学院生の科目選択の柔軟性を確保し、多様な学識、方法論や技術を修得させる。医学の進歩に対応した効率的で質の高いコースワークを目指している。

### (2) リサーチワーク

リサーチワークでは、多講座が有機的な連携を図りながら推進しているプロジェクトベースの研究グループに大学院生を参加させて、近年の生命科学の進歩に対応した多彩な実験手技、方法論や知識を修得させる。リサーチワークをプロジェクトベースにすることにより、大学院生のみならず指導教員の側も講座間の垣根を意識しなくなり、学際的な共同研究の進展が予想され、大学院教育と研究において相乗効果を生むことが期待される。

### (3) 体系的なコースワーク、リサーチワーク

下図1に示すように、大学院生は講義を中心としたコースワーク、研究室ローテーション、及び多講座間連携研究のリサーチワークを体系的に学ぶことにより、複雑高度化する医学領域における知識と高度な研究技術を体得することが出来る。

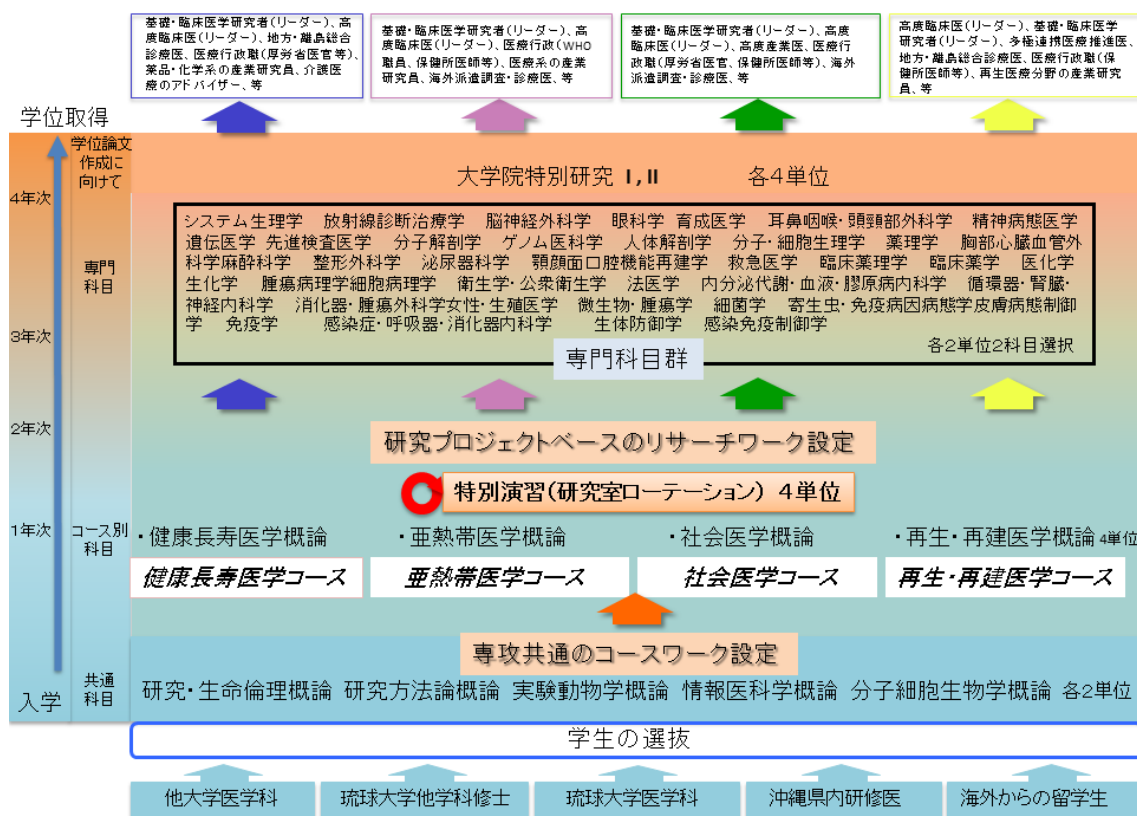


図1. 自己改新力(self-renovation ability)と生涯持続力(sustainability in total life)を持った優れた人材を育成

## 2. その他の取り組み

### (1) 研究発表会

博士課程教育の質保証に向けて、博士課程3年次に研究発表会を実施する。この研究発表会において、博士論文作成に必要な基礎知識、コミュニケーション能力、研究課題の設定能力、解決方法とそれに向けた準備状況及び研究進捗状況等を、それまでのコースワーク等を通じて修得しているか否か包括的に審査する。

### (2) e-Learning システム

社会人大学院生等の就学上の工夫として、e-Learning システムを用いた講義を提供する。共通科目とコース別科目において実施し、社会人大学院生等に不利益が生じないように留意する。

### (3) 副指導教員制度

副指導教員制度を導入し、研究倫理教育の充実を目指す。副指導教員の役割は、分野の垣根を越えた研究指導の補助を行うことや、大学院生が研究倫理に疑問を抱いた場合 主指導教員と独立したメンターとして随時 大学院生の相談相手になるこ

と、及び学位論文投稿前の事前審査を行うことである。

#### (4) インターンシップ制度

インターンシップ制度を導入し、大学院生の就職支援体制の確立を目指す。学務委員長あるいは医学研究科長が、大学院生が希望する企業や研究施設にインターンシップの仲介・斡旋を行って、短期間のインターンシップを実施する。